

# キッズプログラムが年少児に与える運動能力の向上について

金田 祐羽 (競技スポーツ学科 スポーツ情報戦略コース)

指導教員 望月 聡

キーワード: ボールコントロール, 年少児, 運動能力

## 1. 緒言

近年, 電子機器や携帯電話, ゲーム機などの発達, 普及により年少児の運動能力が低下してきていると言われてきている. その他にも少子化問題が進行するなど, 環境の変化により子どもたちが安心して遊べる場所が減少してきているのが問題点として挙げられている. 文部科学省も子どもたちが安心して遊べる環境を作り, その幼児の生活全体の中で主体的に身体活動を行う環境を確保していくことが大切であると述べている. そこで本研究はキッズサッカーを行うことで子どもの運動能力に与える影響はあるのか, その中で特にボールコントロールに着目して今回は研究を進めていく. キッズサッカーが年少児に与える影響について明らかにし, 今後子どもたちの運動能力向上につなげることを目的とする.

## 2. 研究方法

研究対象はキッズサッカーを行っている保育園の5歳児47名, 行っていない保育園の5歳児47名, 計94名。

今回測定するのは3種目. 20m走, 10mドリブル走, ドリブルスラローム走の3つである. ボールコントロールに着目した種目の測定を行った. キッズサッカーを行っている保育園と行っていない保育園でそれぞれ前期に1回, 後期に1回の計2回測定を行った. 前期と後期を比較しさらに, キッズサッカーを行っている保育

園と行っていない保育園で比較する.

## 3. 結果と考察

20m走, 10mドリブル走, ドリブルスラローム走の3種目を分析した. その結果はキッズサッカーでは走るという点ではあまり向上が見られなかった. しかしボールコントロールという点を見れば, キッズサッカーが与える影響は大きかったと言える. キッズサッカーが年少児に与える影響は大きい. それは運動能力やボールコントロールだけではなく, 人間性やコミュニケーション能力など, 普段では学ぶことのできないものも経験し得ることができる.

## 4. まとめ

キッズサッカーを行うことで子どもたちのボールコントロール能力は向上する. しかし走るという点ではあまり影響はなかった. キッズサッカーは子どもの運動能力だけでなく人間的にも成長することができるものである.

## 参考文献

- ・谷川尚己 (1984) 体力づくりと健康安全の関連について 出版社 (杏林書店)
- ・佐々木 玲子 体育の科学 (2015年4月号) 幼児期に必要な動きの発達に関するエビデンス 出版社 (杏林書店)
- ・鈴木 宏哉 体育の科学 2015年4月号 子どもにおける体力・身体活動の大規模調査と縦断的調査の意義 出版社 (杏林書店)